URP Osaka City University NEWSLETTER

Urban Research Plaza, Osaka City University
Issue 2, Feb. 2009

SPECIAL ISSUE 1 International Symposium in Seoul
特集 1 ソウル国際シンポジウム

2008年12月13日から16日にかけて、韓国・ソウル市において、国立ソウル大学とソウル市立大学を会場に第5回「東アジアオルタナティブ地理学者会議(EARCAG)」が開催されました。都市研究プラザからは水内、全、北川、コルナトゥスキ、杉山、稲田、福本、熊谷、本岡が参加しました。都市研究プラザは、香港・上海両サブセンターと合同で企画した”Urban (Re)development in East Asian Cities: The Peoples Approach”のセッションに集中的に参加し、社会的包摂と都市の再生について各研究員の研究成果を披露しました。また、各国の参加者と交流し、都市研究プラザの研究やスタンスの紹介、意見交換など行うことが出来ました。またEARCAG実行委員会では新英語雑誌企画についての協力の可能性を議論し、全面的な支持を得ました。

東アジアホームレス支援調査(ソウル市)

12月14日と15日の2日間、東アジアホームレス支援調査の継続的な聞き取りの一環として、ソウル市のホームレス支援施策のここ1年の動向を知るために、社団法人ナヌム(「分かち合い」)と未来、財団法人居住福祉財団、聖公会タソシギ(「立ち直り」)支援センターの関係者へのインタビュー調査と実際の支援現場の視察を行いました。いずれの団体もホームレスをはじめとする貧困層に対して、「居住福祉」を軸にした支援活動を行っており、そうした活動は、日本のホームレス支援施策にとっても非常に示唆的なものであるという印象を受けました。今後、ホームレス支援活動を通じて韓国をはじめとするアジア各地との交流を深めてゆきたいと考えています。

2008年 韓国都市研究所・大阪市立大学都市研究プラザ共同国際シンポジウム「貧困とコミュニティ」

12月16日、韓国都市研究所と都市研究プラザの共催でシンポジウムが行われました。会場には貧困層の居住問題に関心を持つ研究者や学生、実際に貧困者の居住支援に携わっている行政の担当者や活動家、こうした問題に関心に持つ市民など、50人ほどの参加者がありました。こうした中、シンポジウムでは都市における貧困層の居住問題を主な研究テーマとする日韓の研究者4名の発表と韓国・香港・上海から参加した研究者によるコメントがなされ、東アジア各地の都市における貧困層の居住問題の共通性が明らかにされたと同時に、各都市の状況の改善策については、それぞれの都市の状況に応じた理論を考える必要があることが確認されました。なお、このシンポジウムを通じて、韓国都市研究所と都市研究プラザが連携してソウル市にサブセンターを設立する構想が発表されました。

ソウル駅近くヒルトンホテル前の簡易宿所チョッパン街

In December 2008 Osaka City University's Urban Research Plaza and the South Korean Urban Studies Institute held a joint international symposium on "Poverty and Community." There were about 50 participants including researchers and students with an interest in housing problems of the poor, government workers and activists who actually deal with housing aid for the poor, and citizens who are concerned with these problems. It became clear that many cities in East Asia share common problems in housing the poor, and at the same time it was confirmed that there is a need to consider theories in response to the conditions in each of these different cities. The 5th Conference of East Asian Alternative Geographers (EARCAG) was held with the overall theme of "Post-Globalization and East Asia". The Urban Research Plaza participated intensively in the session "Urban (Re)development in East Asian Cities: The People's Approaach" which it had planned jointly with the Hong Kong and Shanghai Sub-centers, and presented the research results of each researcher on social inclusion and regeneration of cities. As part of the interviews that are a continuation of the East Asia Aid for the Homeless Survey, in order to track developments in the city of Seoul's aid policies for the homeless over the last year, we held survey interviews with those concerned and observed several actual aid locations.

目次 Contents

特集 1:ソウル国際シンポジウム — Special Issue 1: International Synposium in Seoul
特集 2:上田写真アーカイブ — 2: Ueda Photo Archives
特集 3:プラザ week、イブニングセッション — 3: URP Week 2008,
ユニットレポート — Unit Reports
お知らせ — Information

SPECIAL ISSUE 2 Ueda Teijiro Photo Archives
特集2 上田貞治郎写真史料アーカイブ

第4ユニットの上田貞治郎写真史料アーカイブ編纂室（後藤真、緒川直人、水谷清佳）は、20世紀初期写真業界の領袖であった大阪市安堂寺町の上田写真機店の社主上田貞治郎（1860-1944）が遺した、数千点の文書と写真史料コレクションからなる「上田貞治郎関係文書」「上田貞治郎全国名所写真貼コレクション」を調査・分析しています。

これらは、大阪府泉北郡諏訪森の上田貞治郎本宅1階に設置されていた、基督教関係史料・古写真史料のアーカイブ「上田文庫」の旧蔵品で、散逸史料も少なくありませんが、一例を挙げれば以下のような史料群で構成されています。

沖縄を除く本土全域及び植民地朝鮮を包摂する帝国日本の版図に対応する景観写真史料群1777点を集成した「上田貞治郎日本全国名所写真帖コレクション」アルバム20巻（明治30年代大阪のアマチュア写真家野々村藤助作品アルバム、光村利藻作品アルバムを含む）、「上田貞治郎撮影　都市大阪ネガフィルムアルバム1927-1928」、「大阪梅田界隈景観写真シリーズ　1935」、「上田家家族及名士写真帖（仮題）」（明治20年代）、アマチュア写真家「丹生喬翠作品アルバム」2冊、「明治四十三年　朝鮮巡遊及朝鮮各地第三」アルバム、「上田貞治郎日記」、各種覚書・書類群、実逓絵葉書史料群、写真書籍・写真雑誌群、アルバム・写真プリント・硝子乾板群などです。

中之島大阪ホテル明治35年

上田家では昭和30年代頃に史料群を処分整理したことがあり、上田写真機店の経営関係史料群や上田貞治郎関係の書簡史料群、大正年間の日記群、貞治郎がかつては所蔵していたはずの硝子湿板写真群が散逸しています。現在、上記の史料群は目録編纂作業中であり、未整理の文書史料群は非公開であるが、写真史料群については構築中のデジタル・アーカイブや出版物を通じて漸次公開予定です。

当編纂室は、これらの膨大な史料を研究素材として、学界未踏の新領域である「写真史料学」の構築や「写真の歴史学」の再構築に挑戦しています。

1．「古写真蒐集家の世界」の写真史料学・社会文化史的研究（緒川）

「上田貞治郎関係文書」の史料群を丹念にクロスリーディングしつつ、古写真蒐集家上田貞治郎による「日本全国名所写真帖コレクション」20巻の形成過程を、史料学、日本写真史学、社会調査論、歴史地理学、都市社会史の交叉点から「写真史料学」の問題として解明しようとしています。その作業を通じ、1920年代都市に胎動し始めた「古写真蒐集家の世界」の社会的結合（古書肆・地域史編纂・蒐集家・元写真師・アマチュア写真家等の）や、「アルバム史料論」の誕生、古写真アーカイブとしての上田文庫の成立と社会的利用（「上田ブランド」の成立と文化資源化）の経緯等をミクロストリア的に考証しています。方法論的には、日本写真史学や社会文化史と接点構築できる写真史料学研究、新しいタイプの日本写真史学、すなわち「写真の歴史学」の可能態を模索しています。

1980年代以降の「新しい文化史」のフロンティアは都市史研究であったが、都市写真史や写真史料の社会文化史は、見逃されてきた重要な主題です。

「上田貞治郎日本全国名所写真帖コレクション」より梅田駅

2．「上田貞治郎写真史料アーカイブ」の情報歴史学的研究（後藤）

今までの多くの古写真データベースは、あくまでも単体の写真史料を中心としたものでしかありませんでした。日本のみならず、世界レベルでも同様の傾向をもっています。そのため、メタデータを含め、アルバムを含めた史料構造を忠実に反映し、表現することなどを通じ、写真を複眼的・構造的に見るためのデジタル・アーカイブを作成し、写真史料学への貢献を目的としています。史料構造に即したデータベースを作成することによって、写真史料学研究の状況

を見渡し、かつ関連諸学・関連諸国との連携を深めることのできるデータベースを構築するものです。

３．植民地朝鮮京城関係史料の研究（水谷・緒川）

上田貞治郎写真史料アーカイブの上田写真機店京城支店関係史料や植民地朝鮮関係史料群の調査・研究を主旨とする「上田写真機店京城関係史料研究会」の月例会（外部非公開）を開催しています。研究会は2008年8月から12月現在まで4回を数えます。

第1回研究会（8月）では、植民地朝鮮写真史・日韓写真史の先行研究をレヴューし、現在の研究水準や史料状況、主要な論点を確認した。同時に「上田貞治郎日記」の講読を開始しました。毎回の研究会では、上田写真機店京城支店や朝鮮写真業界と上田貞治郎の関係を中心に、日記の購読を進めています。

第2回研究会（9月）では、「上田貞治郎日記　昭和二年」及び京城写真業界関係者からの上田写真機店宛絵葉書史料群の史料解釈を実施しました。このなかで、絵葉書史料の情報を、同時代の日記や商品カタログなど隣接史料とクロスリーディングすることで1908年から1918年までの京城写真業界の状況を復元しました。また、京城写真館を経営した上田家親戚の野々村謙三の回顧録『思ひ出の記』を読込み、京城写真館の経営状況について整理しました。

第3回研究会（10月）及び第4回研究会（11月）では「上田貞治郎日記　昭和四年」を講読しました。

研究会で得られた知見や史料情報は、年表「上田写真機店と植民地朝鮮・京城　since　1906」に記録し、データ管理しています。

「朝鮮COREA」アルバムより　京城南大門

今後は、「上田貞治郎日記」の朝鮮関係の記録を電子ファイル化することで史料の共有化を目指すとともに、貞治郎とその関係者たちの植民地朝鮮・京城での都市経験のひろがりを地図へプロットし、社会的結合の人文地理的特徴なども検証したいと考えています。また、上田家史料群の考証を通じて、日本写真史学や日本近現代史学では未開拓の、植民地京城写真史研究の可能性を追窮する予定です。

曽根崎書屋上より東梅田町線を望む

４．今後の展開

編纂室デジタル・アーカイブ部門では、写真史料研究の成果を踏まえ、「上田貞治郎全国名所写真帖コレクション」の「史料構造」を精確に反映させた新しいタイプの古写真デジタル・アーカイブの構築を、関係団体と協力しながら推進しています。2008年12月20日には、筑波大学で開催される情報処理学会人文科学とコンピューター研究会シンポジウム（じんもんこん2008）で、その概要を報告しました。

出版計画部門では、2008年7月から数種類の出版計画按を練りあげてきました。いずれも上田家所蔵写真史料群を素材とする、①1920～30年代都市大阪・梅田界隈の写真帖、②植民地朝鮮写真帖　③写真史料学研究の成果を編集デザインに反映させた「上田貞治郎日本全国名所写真帖コレクション」の写真史料集の出版を計画しています。

The 4th Unit's Ueda Teijiro Historical Photo Archive editorial group surveyed and analyzed the Writings on Ueda Teijiro and the Ueda Teijiro Collection of Photo Albums of Famous Japanese Places which consist of several thousand documents and historic photographic materials left behind by Ueda Teijiro (1860-1944) who was owner of the Ueda Camera Shop in Osaka's Andoji-cho and a leader in the early 20th century photographic world in Japan. Although many materials have been lost, there are 20 albums of the Ueda Teijiro Photo Album Collection of Famous Japanese Places which has 1,777 scenic photos embracing the whole territory of Imperial Japan (except for Okinawa) including the main islands and colonial Korea, the Ueda Teijiro Photography Negative Film Album of Osaka City 1927-1928, Scenic Photos of Osaka's Umeda District Series, 1935, etc. Additionally, there are the Diaries of Ueda Teijiro, various memos and documents, a historical group of cancelled picture postcards, photo books, photo magazines, album photo prints, glass plates, etc. Using this abundant collection of historical materials for research, the editorial group is attempting to open up new territory in the untrodden academic field of study of photo archives and build a new approach to photographic history.

SPECIAL ISSUE 3 URP Week 2008, Evening Sessions
特集3 プラザ week 2008 イブニングセッション

都市研究プラザでは、毎年11月第2週を「プラザweek」と称して、イブニングセッションやポスターセッションなど特別の催しを実施しています。

・・● イブニングセッション ●・・

■ **第1ユニット**では、活動の最前線に立つ若手研究者が研究・活動内容を互いに紹介し研究を深めていくことを目的として、**キックオフミーティング「都市論って何や？」**を開催しました。

当ユニットは、都市固有の文化的背景とガバナンスのあり方を歴史的に俯瞰し、グローバルな視点から都市を動態的に捉えることをめざしています。そのため研究領域は幅広く、大きく分けると①「創造都市系」②「歴史系」③「生活科学系」の3つから成り、それぞれに「扇町プラザ」「和泉プラザ」「豊崎プラザ」という現場プラザを持っています。

まず各研究領域から、①「都市を構成する個人に注目、創造産業と歴史的空間」、②「近世大坂の法と社会」「四天王寺と都市大坂研究」、③「都市の居住空間の分析・考察（歴史的）、大阪型近代長屋の保存・再生・活用、伝統的居住文化の再評価に関する取り組み」等のテーマで報告を行い、各現場プラザからの報告も実施しました。

後半で都市論とは何か、都市論の導き出すべきものは何かを議論しました。前半の研究紹介が熱の入ったものとなり、後半の議論の時間は少なくなってしまいましたが、指定ディスカッサントの加茂利男氏のコメントを受けつつ、「地域のコミュニティの評価」「都市論での対話の重要性」「ユニット間の関係のあり方」「個別研究と都市研究プラザの関係」といった論点が出されました。

■ **第2ユニット**では、**ワークショップ「市民知と学知の交歓に向けて」**を企画し,実践と研究との出会いが大学や社会に与えるインパクトについてディスカッションしました。

まず、第2ユニットに関わる話題提供者として、都市計画が専門の嘉名准教授、演劇集団《浪花グランドロマン》代表の福島准教授、建築家の宮本教授から、各活動における実践と研究の影響関係について話題提供がなされました。嘉名は、都市計画ではフィールドへ出ることが不可欠であるとし、実践と研究をリンクさせて活動していると述べました。福島は、公園に仮設劇場を建てて芝居をすることにより、野宿者や通りすがりの人々とコミュニケーションが生まれた体験を紹介し、その体験が研究へ波及していった経緯に触れました。宮本は建築家としてのキャリアを振り返り、アートとは「生きる術」ではないかとし、アートは個人の外ではなく中にあると発言しました。続いて、フロアを交えたディスカッションでは、第2ユニットの目標のひとつである「アートを媒介としたコミュニティ再生」がテーマとなりました。コメンテイターである中川ユニット長は、社会を再構築するための道具としてアートを「使う」のではなく、人々が潜在的にもっているアート的感性を引き立てることによって、コミュニティを活性化させていく可能性について言及しました。フロアからの刺激的な発言もあり、社会的包摂に向けた文化創造の仕組みづくりについて活発な意見交換がなされました。

■ **第3ユニット**では、ウィークの前に若手研究者を中心に3つの新領域プロジェクト応募のため、「能く生き良く死ぬ」所作を身につけるための社会システムを追求するQOD班、従来の社会福祉サービスでは支えられない新たな生活困難層を「見える化」するカナリア班、既存の組織・資源を有効活用すべく地域ベースの広義の教育事業を立ち上げるITACO班というユニークな研究班を結成したところです。

こうしたプロジェクトの主要メンバーと、他ユニットの教員や現場で活動する人々を囲んで、**ラウンドテーブル「包摂型社会を真剣に語る」**を行いました。

QOD班からは、社会システムの画一的な機能がもたらすサービスの過剰供給に伴う問題が、一方カナリア班からは、社会システムの機能不全がもたらす慢性的なサービス不足という相反する問題が指摘され、またITACO班からは、これらの問題を解決する一つの方向として、地域ベースの広義の教育システムを構築することが提起されました。

研究の方針についてディスカッションが行われた中では、西成の「現場」で活動するゲストの佐々木氏による、人を支援することへの「覚悟」を示す発言は、「現場」に携わろうとする研究者への鋭い問いを含んでおり、議論が大いに盛り上がりました。「覚悟」を引き受けることで初めて「現場」に身を置きつつ研究することができるという考えが示される一方で、「覚悟」を引き受けることなく「現場」に貢献する方策を見つけ出すことが研究者の立ち位置だ、とする考えも示され、予定していた時間を大幅にオーバーしての討論となりました。

■ **第4ユニット**では、都市研究プラザの将来像を見据えるための**パネルディスカッション「知の売り方—溶出する大学」**を開催し、本学教員と研究員の間で活発な意見交換を行いました。

ともすれば「学問のための学問」という批判を受けがちであった伝統的な大学像を乗り越え、大学の本質的な資産である「知」をどのように社会に還元していくかが主題となりました。

まず、社会的要請に応えるべく、大学内の各専門分野において様々な形で社会への知の還元が行われていることが確認されました。そして、都市研究プラザの方向性である、社会問題の現場に積極的に参加して行う社会貢献を、どのように達成していくかという課題が、議論の焦点になり

ました。特に関心が集まったのは、継続的な知の再生産に必要となる研究者の育成体制です。現場での社会活動参加と、論文発表など学問的成果の両立の困難性が指摘され、解決策が話し合われました。

提示された方策の中で重要なものは、海外サブセンターと大阪市立大学が中心となって発行する予定の英文雑誌の活用でした。つまり、これまで以上に必要とされる海外への研究成果発信を都市研究プラザが組織として支援するので、 国内・海外の現場活動で得られた知見を、積極的に論文にしていくというものです。

一方で、現在の学界が基本的に論文でしか研究者の業績を評価していないため、都市研究プラザもそれに準じた評価体制になっており、現場活動と論文執筆を等価に評価できていない問題も指摘されました。また現状では、都市研究プラザに所属する研究員の大半が今後も学界での活動を望んでいます。現場活動に注力しすぎると論文執筆が疎かになりかねない危険性もあるため、どのように両者の釣り合い取るかが、今後の課題です。

最終的には、未だ都市研究プラザが既存の学界の慣習から解き放たれていない面があるのは認めつつも、社会貢献と学問的成果の二兎を追う意思が、出席者の間で共有されました。そして、各構成員が努力するのはもちろんとして、今後全ての構成員が協力して都市研究プラザの研究・教育環境を改善していく点で一致しました。

・・● ポスター プレゼン／セッション ●・・

今年で3年目を迎えたプラザweekでのポスターセッションは、特別研究員がほぼ全員出展する形で、※のプレゼンテーションも含め、25本ものユニークなプラザの研究活動を披露することができました。詳しくは下記を参照して下さい。
www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/news/posters200811.html

◇第1ユニット◇

01.創造都市の発展と連携をめざして―世界創造都市フォーラム2008 in KANAZAWA & KOBE
02.創造産業の都市間比較
03.東アジアにおけるクリエイティブ・シティへの取り組み―芸術・デザイン政策と創造性への力動性※
04.イギリス・リバプール市の都市再生とそのガバナンス構造
05.縮小都市における団地再生―ドイツにおける試み※
06.大阪型長屋と伝統的居住文化の再生に関わる取り組み
07.前近代大坂の都市史研究の発展を目指して―都市論ユニット歴史系の2本の柱※
08.地域の歴史的総合調査―和泉プラザの取り組み
09.都市の宗教施設と社会構造―中世ウルジェイの教会と近世大坂の生玉神社※

◇第2ユニット◇

10.文化創造のホロニック
11.空間活用によるタウンマネージメントの試み―船場アートカフェ2008
12.次世代育成支援を促進するコミュニティの活性化を目指した芸術活動導入
13.都市研究のメタ・アクションリサーチに向けて※
14.アートマネジメント／災害支援／社会包摂※

◇第3ユニット◇

15.ホームレス／社会的包摂／「見える化」システム※
16.超高齢化社会における「死」を前提とした社会システムの再構築※ESにて
17.条件不利地域における自立型コミュニティ福祉システムの構築※ESにて
18.スパイラル構造―社会的排除の教育格差を考える※
19.韓国の再開発住宅団地におけるソーシャル・ミックス計画に関する研究
20.NPOによる住宅困窮者の支援事業と公民の連携体制
21.地理情報システムを用いた現代都市における社会的不利の「見える化」

◇第4ユニット◇

22.君を「移民収容所」へ「歓待」＝「拘禁」しましょう―「イタリア」における移民排除と越境運動を知覚するための想像力※
23.A role of Recycling in Achieving Sustainable City: Low Carbon Transportation and Social Inclusion※

◇公募◇

24.大阪市の各行政区における家庭系／事業系一般廃棄物の発生量と発生分布の推定※
25.都心再生のための水辺空間デザインとその実現に向けた技術的諸課題の検討※

At the Urban Research Plaza, every year the second week of November is "Plaza Week" and we put on a number of special events such as evening sessions and poster sessions. Evening Sessions Unit 1, with the aim of introducing and enriching the research content and activities of the younger researchers who stand at the forefront of our activities to each other, kicked off the meetings with a session "What is Urbanism?" Unit 2 held a workshop titled "Towards Intermingling of Civic Know-how and Academic Knowledge." In the workshop, discussion of the impacts on the university and society of the meeting of actual practice with research was held, led by researchers who are involved not only in education and research at the university but are energetically engaged out in the field. Unit 3 assembled three unique research teams to staff three research projects in new areas, and with the principal members of those projects, together with teaching staff from other units and people active out in the field, held a roundtable discussion on "Talking Seriously About an Inclusive Society." Unit 4 planned a panel discussion on "Knowledge Selling- the Dissolving University" in order to project the future of the Urban Research Plaza. Overcoming the traditional image of the university which tended to be easily criticized for its 'scholarship for the sake of scholarship', and how to put back the knowledge, which is the real capital of the university, into the society became the main topic of discussion. Poster Sessions at this year's Plaza Week, the third in a row, with almost all of the special researchers exhibiting posters, 25 unique Plaza research programs were introduced.

Unit Reports　ユニットレポート

The1st Unit 第1ユニット　Urban Theory 都市論

■世界創造都市フォーラム2008 in KANAZAWA
日時：2008年10月17日（金）10:00～17:00
会場：金沢21世紀美術館シアター21
主催：金沢創造都市推進委員会、金沢市、文化庁
協力：大阪市立大学都市研究プラザ、日本航空

２部構成で実施され、第１部は07年度に文化長官表彰（文化芸術創造都市部門）を受賞した横浜市・金沢市・近江八幡市・沖縄市の代表が集まり、それぞれの取り組みと今後の課題を議論しました。

第２部は、フランス元文化大臣のジャック・ラング(Jack Mathieu Emile Lang)氏による基調講演の後、佐々木所長がモデレーターを務め、ユネスコ創造都市（サンタフェ市・ボローニャ市・ベルリン市）の代表者とともに、文化的多様性を保持し持続可能な発展をめざすネットワーク構築のあり方について議論し、アジェンダを採択しました。

■第２回創造都市ラウンドテーブル
日時：2008年10月18日（土）9:30～12:00
会場：石川四校記念文化交流館（金沢市）
主催：大阪市立大学都市研究プラザ
ゲスト：片山泰輔氏（静岡文化芸術大学准教授）、小林康博氏（前ユネスコ創造都市担当）、湯浅真奈美氏（ブリティッシュ・カウンシル）
参加者：世界創造都市フォーラムの海外ゲスト、文化庁職員、創造都市をめざす12自治体の政策担当者、韓国からの研究者グループ等

第１回（同年２月大阪で開催）での議論をさらに深めようと、文化政策のあり方や現場で直面している課題等について、率直な意見交換を行いました。

■世界創造都市フォーラム2008 in KOBE
日時：2008年10月20日（月）13:30～17:15
会場：神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
主催：神戸市
協力：大阪市立大学都市研究プラザ

佐々木所長による基調講演の後、サンタフェ市・ボローニャ市・ベルリン市の代表者が報告を行い、それぞれの発展と連携について議論しました。ユネスコ創造都市ネットワークに加盟申請していた神戸市は、フォーラム直後に認定され、当日採択したアジェンダをもとに、アジア初の認定都市として今後リーダーシップを発揮していくことが期待されています（佐々木所長が神戸市の創造都市連携アドバイザーに就任）。

■研究会：21世紀の「都市のかたち」を考える
日時：2008年12月8日（月）～10日（水）
会場：琵琶湖コンファレンスセンター
参加者：Lim Sang-on（韓国文化経済学会会長）他8人

グローバル経済の進展、その変容、産業構造の転換と都市構造の変容、人口減少、環境容量の枯渇・・・。

都市を取り囲む時代環境が大きく変っている。こうした条件下、21世紀の都市は如何にその「かたち」を変えるのか、あるいは都市政策は都市の「かたち」を如何に誘導することが求められているのか、について議論しました。

■第５回創造産業と都市政策研究会
日時：2008年12月20日（土）14:30～17:00
会場：キャンパスポート大阪
テーマ：グローバル化する文化政策
パネリスト：川崎賢一氏（駒澤大学教授）、野田邦弘氏（鳥取大学教授）

世界金融危機の中で、文化的多様性を認め合い真の豊かさを模索する動きが加速しています。国際会議における文化政策論の最新動向をふまえ、ゲストと佐々木所長が議論しました。

From October 17-20, the International Creative Cities Forum 2008 was held in Kanazawa and Kobe, with the "Creative City Roundtable" in Kanazawa. Policy makers from Bologna, Santa Fe, and Berlin were invited, and we discussed a citizen's network aimed at preserving cultural diversity and sustainable development. In both cases, Urban Research Plaza Director Sasaki supervised the planning cooperation and production. At the roundtable, not only Japanese local government officials but also a group of South Korean researchers participated. In the future we plan to develop so that our vision includes linkages with other Asian cities.

■四天王寺と都市大坂研究会　第9回
日時：2008年10月31日（金）19:00～21:00
発表者：宮本裕次氏（大阪城天守閣）
「徳川将軍家位牌所としての四天王寺」

江戸時代、四天王寺の五智光院には歴代徳川将軍の位牌が安置され、大坂城に赴任した幕府諸職（大坂城代・大坂定番など）の参詣が将軍の忌日を中心に継続的に行われていました。これは単に在職者の発意ではなく、幕府の政策的意図によるものだったと推定されます。参詣の実態や変遷を通じ、幕府による四天王寺の位置づけ、直轄都市大坂の位置づけ、「将軍の城」たる大坂城の位置づけなどについて考察しました。

■四天王寺と都市大坂研究会　第10回
日時：2008年11月7日（金）　19:00～21:00
発表者：松尾信裕氏（大阪城天守閣）
「太融寺境内での発掘調査成果と中世集落」

近世天満郷に隣接する北野村太融寺境内で行った発掘調査では12～15世紀の遺物が出土し、この境内一帯の開発が鎌倉時代に遡ることが明らかになりました。また、検出された溝や土壙は北で西に振る方向で現在の街区の方向とも共通することが判明し、この一帯が

中世の集落構造を踏襲している可能性が高まりました。この集落の様相を報告するとともに、よく似た構造の街区が残る四天王寺門前町とも比較検討を行いました。

■四天王寺と都市大坂研究会　第11回

日時：2008年12月12日（金）19:00～21:00

発表者：吉田　豊氏（堺市博物館）

「住吉と四天王寺　―大阪湾の町と港―」

住吉大社の御輿が堺へお渡りする住吉祭の古代～中世期の記録、および住吉や堺周辺の発掘調査成果や近世絵図の分析から、古代～中世期の大阪湾岸（特に現大阪市～堺市辺り）の景観を考察しました。また、寺社の祭礼の在り方から寺社の門前空間を把握する見方、その見方に基づいて、伊勢神宮や石清水八幡宮といった他地域との比較についても言及しました。

■杉森哲也著『近世京都の都市と社会』を読む

日時：2008年11月23日（日）13時30分～17時30分

主催：近世大坂研究会、大阪市立大学文学研究科都市文化研究センター、G-COE都市論ユニットの共催

『近世京都の都市と社会』（東京大学出版会、2008年8月）の著者杉森哲也氏を招待して開催しました。

日本近世都市史研究では、1980年代、京都研究が主流となっていましたが、著者の杉森氏はその潮流の中で研究を始め、現在に至るまで近世京都を対象として多くの業績を残してきました。氏の京都研究をはじめて一書に纏めたのが本書であり、その内容に対しては、近世大坂研究でも学ぶべき点が多いと考え、今回の書評会を企画しました。

We periodically hold meetings of the Shitennoji and City of Osaka Research Association. Additionally, in research on early modern Japanese cities, since research on Kyoto occupied the mainstream since the 1980s, we held a literature review meeting of the representative research. There are many things in that research that can be learned for research on early modern Osaka as well.

Toyosaki Plaza　豊崎プラザ

■韓国　延世大学 都市再生事業団による視察

日時：2008年10月15日（水）10:00－12:00頃

参加者：延世大学側8名+通訳1名

延世大学によるスタディツアーの一環で、豊崎プラザ内の主家・長屋を視察しました。初めに「都市研究プラザにおける現場プラザの役割」について説明し、その後、豊崎プラザの概要やこれまでの取り組みについての発表、さらには耐震補強についての解説を行いました。一行の関心は、大学による伝統的な建物群の再生・活用に取組むプロジェクトから、建物の部分の意味や意匠まで広範囲に及びました。また、駅への道すがら同時期の建物の残る中崎町を興味深く比較していました。

■2008年度耐震補強および改修工事の開始

日程：2008年11月～2009年3月（予定）

対象：豊崎プラザ内長屋2棟8軒

昨年度に引き続き、大学と建物所有者の連携で老朽化の進む豊崎プラザ内の長屋の耐震改修工事を実施することになり、解体調査工事に着手しました。耐震補強以外にも、居住者提供の昔の写真を参考に、建物ファサードのデザインを検証したり、既存の軸組架構を尊重して計画を進めたりなど、長屋が以前から持つ魅力を引き出すことを試みています。改修のための設計は居住環境学科の学生による卒業設計で取組み、また工事過程にも土壁の表層部分の土落としなど学生による実習を盛り込んでいます。今年度の工事対象には、空家3軒を除き居住者のいる住宅になるため、工事に先立ち、長屋の居住者に対し工事の計画や行程についての説明会を開き、疑問を解消するとともに、耐震改修の必要性についても理解を深めてもらいました。

■大阪型近代長屋スポット保全研究会　第8回

「京町家の保全・再生の取り組み　―　ニューヨークプロジェクトの成果を踏まえて ―」

日時：2008年12月6日（土）13:00－15:30

報告者：寺本健三氏（（財）京都市景観・まちづくりセンター）

京都の歴史と文化の象徴として貴重な財産である京町家を残そうと改修や助成などによって保全再生に取組む、京都市景観・まちづくりセンターから、センターのしくみや取組み、これからの展望を学びました。参加者からは町家の保全・再生の先駆者としての京都の取組みに対し、たくさんの質問が上がり、今後の大阪型長屋スポットにどのようにその成果を反映させていくか議論を行いました。同センターは、前月にニューヨーク市において京都及び京町家の価値を国際社会に強くアピールする発信プロジェクト・京町家ニューヨークシンポジウムを開催しました。このシンポジウムについての成果をもって、国際社会における京町家への関心の高さを確認し、町家を保全・再生する大きな流れを構築していくうえで、今後は国内の他都市とも交流や意見交換をはかっていく必要性が訴えられました。

Continuing from last year, work was done on the project of strengthening earthquake resistance and renovation of the nagaya buildings at Toyosaki Plaza. This year the work was mainly on the nagaya that the residents live in. In addition to strengthening against earthquakes, using old photographs supplied by the residents, we are attempting to bring out the charm that the nagaya originally had, considering the design facade of the buildings, and making plans that respect the existing axial group structure. In the Osaka-style Modern Nagaya Preservation Study Group, we have studied the recently concluded outreach project in New York that made a strong appeal to international society about the value of Kyoto and the kyomachiya, as well as the latest methods for preservation and restoration of Kyoto's kyomachiya, and have discussed how that can be put to use in the future for Osaka-style nagaya locations.

Ogimachi Plaza 扇町プラザ

■延世大学 都市再生事業団　日本視察
日時：2008年10月13日（月祝）～10月21日（火）
訪問先：京都市立景観街づくりセンター、西陣町家倶楽部、神戸市野田北部地域、神戸市真野地区、西成プラザと愛りん地区、豊崎プラザ、大阪市平野区平野郷、寝屋川市ベル大利商店街、世界創造都市フォーラムin金沢、創造都市ラウンドテーブル、金沢市民芸術村、金沢市こまちなみ保存地区、神戸市須磨区の千歳地区、世界創造都市フォーラムin神戸

扇町プラザでは、韓国・延世大学を中心とする研究者らの視察団を受け入れ、京阪神を中心とする創造的な都市再生の取り組みを行う地域への視察をコーディネイトしました。

■大阪市立大学都市研究プラザ・延世大学 共同セミナー「創造都市と都市再生の今後 － 日本と韓国の経験」
日時：2008年10月15日（水）14:00～17:30
会場：高原記念館　セミナーホール
討論司会：矢作弘（大阪市立大学大学院創造都市研究科教授）

前述の視察の一環として、共同セミナーを開催しました。都市研究プラザからは、佐々木所長が創造都市論の系譜に関するレクチャーと日本各地の創造都市の紹介、水内副所長からは大阪市西成区を中心とする貧困問題の調査と支援に関する報告を行いました。次に延世大学のリ・ヨンスク(Lee Yeun Sook)氏からは韓国で新しく登場した地域社会に立脚した都市再生政策と大学の関わりに関する報告、キム・ジュサク(Kim Ju Suck)氏からは市街地再生に関する制度と事例の紹介が行われました。その後、矢作弘の司会で討論が行われました。

At the Ogimachi Plaza, we have started on the "Urban Culture and the Creative Functions of Industry" project, we are consulting with people who are active in the neighborhood, and we are aiming to make it into a place where we can feed back research results into the community. During the week of October 13-21, we welcomed a visiting group of Korean researchers, mainly from Yonsei University, and we coordinated a study tour for them, mainly in the Keihanshin region of areas that have taken up creative city renewal, and then we accompanied them. As part of that, we had exchanges with them in visits to both Nishinari and Toyosaki Plazas and through holding a joint seminar. Additionally, we participated in the International Creative Cities Forum held in Kanazawa and Kobe, were able to learn about trends not only in Japan but in the world, and had a fruitful study tour.

The2nd Unit 第2ユニット　Cultural Creativity 文化創造

■第13回アートマネジメント研究会
日時：2008年10月8日（水）13:00～15:00
発表：劉暢（工学研究科後期博士課程）
テーマ：「瀋陽市都市計画における近郊地域の位置づけの歴史的変遷に関する研究」

発表は、都市近郊地域の緑地・農林地保全の問題に着目し、中国東北部の大都市である瀋陽市を事例として、満州時代以降の都市計画における都市近郊地域の位置づけの歴史的変遷について明らかにするものでした。満州国時代の都市計画はグリーンベルト理念と地域制という2つの都市計画理論を併用し、近郊地域に開発規制を設け環状緑地の保全を目指すものでしたが、中国建国後の計画経済から市場経済への「転形」によって、近郊地域における無秩序なスプロール化が進行したことが指摘されました。

■第14回アートマネジメント研究会
日時：2008年11月5日（水）13:00～15:00
発表：石川優（文学研究科後期博士課程）
テーマ：「〈読みの実践〉としてのやおい: 二次創作のテクスト分析を通じて」

発表は、やおいという女性による男性同士の恋愛を主題とした作品に着目した上で、既存の作品のキャラクターや設定を借用して二次的な作品をつくる二次創作という表現行為を事例とし、やおいにみられるテクスト解釈の多様性とコミュニケーションの媒介項としてのやおいの可能性について言及するものでした。

■第15回アートマネジメント研究会
日時：2008年11月26日（水）13:00～15:00
報告：中川眞（ユニット長）
テーマ：「災害支援とアートマネジメント」

「ガムラン・エイド（ガムランを救え）」の活動と、災害支援のアートマネジメントについての報告がなされました。「ガムラン・エイド」とは、2006年5月に起こったインドネシア・ジャワ島中部の震災に際して立ち上げられた任意団体です。同団体は、パフォーミングアーツに必要なガムランや衣装などの修繕への経済的支援、被災地で開催されるコンサートなどへの経済的支援、芸術や文化の関係者との交流を通して新たな文化創造に向かう共同作業を活動目的としています。大災害のようなときにこそ文化の真価が問われるとし、災害から生じる社会的問題に対して文化が果たす役割、遠く離れたプロジェクトをマネジメントする方法論、被害沈静後の対処の方策などについて言及しました。

■文化政策とCCDセミナー: 大阪会場プレセッション
日時：2008年11月15日（土）10:00～12:00
講師：ガレス・リフォードGareth Wreford氏（Director of Art Access Australia）
テーマ：Government Arts Policy in Australia

財団法人たんぽぽの家の協力で、障がいのある人のアート活動を支援するArt Access Australiaのディレクターであるガレス・リフォード氏の講演会を行いました。講演会では、オーストラリアの文化政策とアートに関する市民団体の活動について紹介されました。講演の後は質疑応答が行われ、オーストラリアの文化政策や文化芸術活動の現状について理解が深まりました。

■文化政策とCCDセミナー: 持続可能な文化発展」大阪セッション
日時：2008年11月15日（土）13:30～17:30
講師：ガレス・リフォード氏（Director of Arts Access Australia）、伊藤裕夫氏（富山大学芸術文化学科教授）、山口悦子氏（大阪市立大学病院医学研究科・病院講師）、田野智子氏（NPO法人ハート・アート・おかやま代表）

コーディネーター：中川眞（ユニット長）
主催：財団法人たんぽぽの家
共催：大阪市立大学都市研究プラザ/船場アートカフェ
後援：オーストラリア大使館/豪日交流基金
2008年度文化庁芸術団体人材育成支援事業

セミナーでは、コミュニティが抱える課題や社会的問題に対してアートを媒介とした創造的解決を目指すCCD（Community Cultural Development）をテーマとし、その可能性についてセッションを行いました。まず、オーストラリア全域の団体とネットワークをもつArts Access Australia のディレクターであるガレス・リフォード氏と富山大学芸術文化学教授の伊藤裕夫氏から、それぞれ基調講演がありました。その後、山口悦子と田野智子氏から、社会的に弱い立場にあるといわれている人々をアートの力を通してエンパワーメントする活動や、コミュニティを再生させるアートの取り組みについての実践報告が行われました。最後にディスカッションの時間が設けられ、日本ではあまり知られていないCCDやオーストラリアの文化政策に対する質問や、実践報告を受けての意見交換などがなされました。

At Unit 2, we held an Art Management research meeting with the members making presentations in order to share our awareness of problems. Also, we invited Gareth Wreford, director of Arts Access Australia which supports art activities for the handicapped, and held a lecture and seminar meeting.

Senba Art Cafe　　船場アートカフェ

■「まちのコモンズ-船場建築祭3 in 高麗橋2丁目」
日時：2008年11月25日(火)-29日(土)
主催：大阪市立大学・都市研究プラザ　船場アートカフェ
船場建築祭実行委員会
共催：集英連合高麗橋2丁目振興町会

◆映像上映

大阪が誇るデザイナー喜多俊之氏のスタジオSpace KITA'Sの1階を借り、船場・高麗橋2丁目の過去と現在を映像やスライドで紹介しました。今回は、近代建築の工事記録、かつてのお祭の様子など、過去の街並みと併せて、写真家大森克己氏が撮影した現在の高麗橋2丁目の風景を上映したのですが、その対比を楽しむ方、感慨深げに懐かしい風景に見入る方など様々な感想が聞かれました。

◆アジア音楽ライブ

船場アートカフェのアジアの民族音楽レッスン「船場音泉」シリーズから、タイ音楽、インド音楽、八重山民謡、モンゴル民謡の講師を招き、三井ガーデンホテルの前にあるオープンスペースを利用したミニライブを開催しました。ライブの時間が、周囲のオフィス街の帰宅時間と重なるため、道行く人や、ホテルの利用者が、思いがけないアジア音楽の調べに足を止め聞き入る姿が見られました。

イベントに参加することは、通常、非日常的な行為となることが多いのですが、今回のように街を行く人々が足をとめ、しばし音楽を楽しんだ後、また行き過ぎるという参加スタイルは、日常を逸脱しない範囲でいつもと違う時間を楽しむという新しいイベントの方向性を示唆するものとなりました。

◆近代建築セミナー

イベント2日目の26日（水）、「近代建築セミナー」が開催されました。イベント企画者であり都市研究プラザの特任講師でもある高岡伸一がセミナーの講師となり、高麗橋通を中心に船場に残る近代建築の魅力を紹介しました。この地域を代表する近代建築の1つであり、最終日のシンポジウム会場である浪花教会も取り上げられましたが、同教会設計に関わったヴォーリズによる大丸心斎橋店のデザインにも話が及び、近代建築の映像に併せてなされる建築の来歴、様式等の説明は、参加者に改めて高麗橋の歴史、文化の豊かさを実感させるものとなりました。

◆アート＆煎茶deサロン
日時：2008年11月28日(金)18:30～20:00
会場：Space KITA'S

「古美術　井上柳湖堂」で毎月開催している煎茶とアートとの出会いの場「煎茶deサロン」を今回特別にSpace KITA'Sを会場に行いました。会場となったSpace KITA'Sは普段から喜多氏の作品が展示される刺激的な空間ですが、そこにアートライフとギャラリーの協力でアート作品がコーディネイトされ、両者のコラボレイトが来場者の目を引きました。

◆高麗橋通まちあるきツアー
日時：2008年11月29日(土)10:30～12:00

ツアーを担当した船場研究体の趣旨説明の後、浪花教会を出発し、高麗橋通りを中心に御堂筋周辺の高層ビルが林立する地域を抜けていきました。途中、適塾横の公開空地でツアー参加者の自己紹介が行われました。参加者は、歴史的建築物に関心のある方、高麗橋周辺で勤務されている方など様々でした。堺筋へ出ると、新井ビルや高麗橋野村ビルディングの近代建築が独特の雰囲気を醸し出す一方で、北浜タワーが完成に近づいており、歴史の積層が感じられました。小西家住宅や少彦名神社がある道修町では、前週に行われた神農祭の名残が見られました。浪花教会へ戻り、中へ入ると、ステンドグラスから光が差し込み、神秘的な空間に包まれました。参加者からの、「高麗橋周辺は、高層ビルから歴史的な建物まで、多様な顔を持っているところが魅力ですね」との感想が印象的でした。

◆シンポジウム
日時：2008年11月29日(土)13:00～16:00
会場：日本基督教団浪花教会　礼拝堂

高麗橋2丁目に残る近代建築の代表的な1つである浪花教会の礼拝堂を会場に、街の歴史・文化と空間の活用、そしてアートの力を通したまちの再生について報告、ディスカッ

ションを行いました。

シンポジウム冒頭の基調講演では会場となった浪花教会の設計にふれ、全体のイベントタイトルにもある「コモンズ」そのものや、今回のイベントについての説明がなされました。高麗橋2丁目振興町会長である池田吉孝氏からは、「町からの報告」として、近年タワーマンションの建設やビルの建て替え等環境が変わりつつある高麗橋2丁目の地域の意見を伺いました。

コモンズを明確に定義することはむずかしいのですが、一般的に空間、時間、知識、情報等の共有財産と認識されています。街にもこうした「コモンズ」をいたるところに見出すことが出来ますが、地域が有する伝統や文化も「コモンズ」の1つといえるでしょう。最近では三休橋筋が魅力的なプロムナードとして整備され、船場地区HOPEゾーン協議会が設立される等、船場のまち全体を盛り上げる流れが高まりつつありますが、パネルディスカッションでは、そうした変化の中で、豊富な文化資源を内包する高麗橋2丁目を位置づけなおし、「コモンズ」というキーワードから、新しいまちのあり方を考察するための提言が各パネラーからなされました。

[コーディネーター]
嘉名光市(大阪市立大学准教授)
[パネラー]
池田吉孝氏(高麗橋2丁目振興町会長)
大橋達夫氏(船場地区HOPEゾーン協議会会長)
佐久間新氏(舞踊家)
澤田充氏((株)ケイオス代表、北船場くらぶ代表)

From November 25 to 29, 2008, a "Town Commons- Senba Architecture Festival 3 in Koraibashi 2-chome" was held at various locations in Koraibashi 2-chome. At this event, held in cooperation with the Koraibashi 2-chome neighborhood association, we planned a program using the town's old history, rich culture, and hidden secrets, and on the final day held a symposium that considered the form urban renewal should take through an experiment in 'togetherness'. In the symposium, people who are involved in promoting the Senba district participated in a panel and had a lively exchange of views on neighborhood history, culture and the use of space, and town renewal through the power of the arts.

The3rd Unit 第3ユニット　Social Inclusion 社会包摂

■真田山・大阪城スタディツアー

日時:2008年11月21日(金) 9:30-17:00

2008年GCOEプラザウィーク開催期間中の11月21日、その関連イベントとして、宰相山西公園、真田山陸軍軍人墓地、大阪城公園を巡るスタディツアーが行われました。内地研究員の能川泰治が主催し、第1から第4ユニットの研究員に加えて、都市研究プラザ事務スタッフも参加するなど、ユニットの枠を超えたイベントとなりました。大阪城の歴史的意義については、7月に行われたユニット研究会で、能川によって発表されていますが、実際に現地を歩くことで理解が深まったように思われます。石垣の刻印や地形・地名など、大阪城とその周辺に残されている痕跡を手がかりに、大阪城の規模、徳川幕府による大阪城再建の経緯、天守閣が再建された当時の世相といった大阪城と大阪市の歴史を掘り起こすことができました。

■第8回社会包摂ユニット研究会

この日の研究会では、日韓双方から5つのテーマの発表(日本側3つ、韓国側2つ)があり、昼間のスタディツアーに関わるテーマの発表から研究会がスタートしました。それぞれの発表テーマは以下のとおりです。

発表1.福田久美子((株)美交工業専務)
「清掃業者の環境福祉サービス」

「清掃業」という業態からどの様にホームレスや障がい者などの「社会的弱者」の就業支援に取り組んでいるのか、について述べられました。こうした問題に注目する様になったきっかけや背景をはじめ、どの様な仕組みで動いているのか、こうした取り組みが企業自身にどの様にフィードバックされるのか、など多岐にわたる内容でした。

発表2.蓬莱梨乃(都市研究プラザ西成プラザ研究、NPO法人エスアイ協会事務局)
「NPO法人エスアイ協会による西成高校での授業支援」

発表者自身が関わるNPO法人エスアイ協会(Social Inclusion Association)による大阪府立西成高校に対する授業支援の取り組みについて、西成地区の概要やエスアイ協会の活動の紹介、そして西成高校における授業支援の取り組みが紹介されました。そこでは、西成高校の福祉エリアにおけるホームヘルパー2級資格の取得講座を通した生徒への動機付け、進路選択の支援、などの取り組みを通じて、困難な状況に置かれている生徒達にどの様に関わっていくのか、新聞記事を資料にしながら、具体的なケースをもとに紹介されました。

発表3.ありむら潜(釜ヶ崎のまち再生フォーラム)
「釜ヶ崎地域の概要及び釜ヶ崎再生フォーラムの活動」

釜ヶ崎のまち再生フォーラムのありむら氏から「釜ヶ崎」と呼ばれる地域の置かれている現状と、ありむら氏が主催する「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」の活動内容について発表されました。漫画家としての顔も持つありむら氏の作品のキャラクター「カマやん」(とその仲間)が顔を出すユーモアのある発表でしたが、わかりやすい分、この地区が置かれている現状の厳しさが伝わりやすかったのではないでしょうか。

発表4.イ・ギウ神父(前韓国カトリック教会ソウル大教区貧民司牧委員会委員長)
「韓国都市貧民運動の展開とカトリック貧民司牧の使命と取り組み」

韓国・ソウル市で貧困問題に取り組んで来られたイ神父より、韓国の「都市貧民運動」の展開と韓国カトリック教会が「都市貧民運動」に関わる様になった経緯を紹介された後、「カトリック貧民運動」においてカトリック貧民司牧の果たす役割と活動内容について述べられました。その中で、イ神父は居住権だけではなく、雇用や教育も重視し、そうした問題に対する実践として「協同組合運動」と「青少年スカウト運動」に取り組んでいると述べられました。

発表5.縫製協同組合「ソルセム・イルト」メンバー

「縫製協同組合「ソルセム・イルト」の実践」
イ神父の発表を受けて、「ソルセム・イルト」のメンバーから、実際の「ソルセム・イルト」の活動内容が発表されました。写真を用いて、普段どの様な活動を行っているのかが視覚的にわかりやすく紹介されていました。会場からの「実際にどの様な商品を製造しているのか」という質問に対して、「カトリック祭祀用の衣装を製造している」との回答があり、あまり景気に左右されない商品を製造することで「貧民運動」の経済的な基盤に貢献していることが印象的でした。

■プレ研究会　日韓交流西成スタディツアー

日時：2008年10月28日（火）

この日は、韓国から縫製協同組合「ソルセム・イルト」のメンバーを迎え、大阪のホームレス支援の現場を見学するスタディツアーの後、西成プラザに会場を移して研究会が行われました。

午前中はホームレス救護施設「今池平和寮」、社会福祉法人「ふるさとの家」などを見学し、それぞれで行っているホームレス支援の取り組みについて説明を受けました。その後、(株)ナイスが経営する「くらし食堂」に移動し、昼食を取りながら(株)ナイスが西成地区で展開している活動内容について意見交換を行いました。昼食後、(株)ナイスの非営利部門である「くらし応援室」に場所を移し、「くらし応援室」がどの様な活動を行い、どの様にホームレスの人々と関わりを持っているのか、について説明を受け、活発な意見交換を行いました。スタディツアーの締め括りは大阪府営住吉公園へ。ここでは、(株)美交工業が府営公園である住吉公園の指定管理業務に携わる中で、どの様にホームレスの就業支援の取り組みを行っているのか、実際に公園内を見学しつつ、説明を受けました。

■第9回社会包摂ユニット研究会

日時：2008年12月25日（木）　18：45-20：30

発表者等：孔相権、川浪剛、黒木宏一

第9回研究会は、現在準備中の阿倍野プラザ（阿倍野区阪南町に建つ戦前の長屋）を会場に、ユニット内外から20名が参加して行われました。「能く生き良く死ぬ」所作を身につけるための社会システムを考えるQODプロジェクト（新領域科研で採択された研究課題「超高齢化社会における「死」を前提とした社会基盤の再構築」）の代表者である孔相権が、QODプロジェクトと福祉アパートプロジェクトについて発表し、続いて川浪剛と黒木宏一が阿倍野プラザの取り組みについて発表しました。その後、福祉アパートプロジェクトへ期待すること、阿倍野プラザの活動とQOD研究との関連性、阿倍野プラザで行われるイベント、データ収集の具体的な手法とその取りまとめ方、最終的なアウトプット方法等について活発に議論されました。

This term's research meeting of Unit 3 was quite fruitful, combining with a study tour and discussions about new projects. Additionally, it managed to attract many participants from both inside and outside the unit and served as an occasion for new network-building. In October we had a Japan-Korea exchange, with an introduction to the housing and employment aid activities for poor areas in Seoul and later an exchange of views, and then in December there was the opening of the Abeno Plaza, and, accompanying it. were explanations of the death with dignity project QOD and the planning for the temple cafe.

Nishinari Plaza　西成プラザ

■新宮支部女性部、西成北部スタディツアー

日時：2008年11月26日（水）・27日（木）

主催：大阪市立大学都市研究プラザ西成プラザ

第3ユニットの研究員が中心となり、平成20年4月から新宮市調査が行われているが、今回はいつも調査に協力してもらっている新宮女性部の方々を大阪に招いて、西成区北部のまちづくり活動紹介及び、活動従事者との交流を兼ねた西成北部スタディツアーを企画しました。参加者は新宮支部女性部の6名と都市研究プラザ関係者や西成をフィールドとする活動家です。

1日目は西成区北西部見学（社会的企業㈱ナイスを取り巻くまちづくり活動の紹介とフィールドワーク、くらし応援室での佐々木敏明氏の当事者との関わりを中心とした活動紹介）と僧侶である川浪剛氏による講話、2日目は午前中に高原記念館で水内教授の「ホームレス支援」に関する講義に参加、午後には「釜ヶ崎」にある生活保護施設・救護施設今池平和寮で、織田隆之主任よる利用者と施設のあり方を中心とした施設紹介がありました。

新宮市と西成区、物理的距離はありますが、今後とも両者が往来する機会を継続的に設け、情報交換や課題の共有化、そして新たなネットワークの構築へつなげていくことの必要性を確認しました。

■西成健康調査研究会

主催：西成区北西部まちづくり委員会

後援：西成住宅改良地区まちづくり協議会

当研究会は、大阪市西成区のなかでも都市課題が集中する北部に着目し、なかでも釜ヶ崎がある北東部を除く北西部をフィールドとして、西成区北西部住民の健康状態の実態を明らかにすることを目的に、平成19年3月にプロジェクトが立ち上げられました。西成区北西部の住民の生活実態を分析するとともに、その背後にある経済的要因（経済的不平等）ならびに社会的要因（社会的排除）との関連を明らかにしていくことが、この調査のねらいとなっています。1年半もの長期間にわたり、調査票や調査体制についての検討が重ねられ、10月には決起集会、12月には学習会が開催され、遂に平成21年1月から調査を開始する段階へと到達しました。

■テーマ：西成区の健康問題についての学習会

日時：2008年12月15日（月）　18：30-20：15

場所：大阪市立西成人権文化センター

参加者数：79人

発表者：田淵貴大氏（大阪大学大学院医学系研究科後期博士課程）、福原宏幸（大阪市立大学大学院経済研究科教授）

西成区北西部居住者及び就労従事者の方々を対象に、各々があらためて「健康」について考えるきっかけづくりとして、「西成」と「健康」をキーワードに、社会的、経済的、医学的な見地から日常生活を見直し、意識の向上を図ることを目的とした学習会が実施されました。会の運営も、参加型の採用など、親しみやすくわかりやすいものになるよう工夫しました。

The Kamagasaki Archive Project and the Nishinari Health Status Survey, both managed by the researchers and research assistants belonging to the Nishinari Plaza, got under way. The Kamagasaki Archive Project originated with a collection of 3,900 photographic records made over a thirty year period after the war that were donated to the Urban Research Plaza by Mr. Uehata Shigenobu who worked at Nishinari Labor and Welfare Center. After organizing them in collaboration with NPOs and local organizations, we will make them into a digital archive. The Health Status Survey is beginning in the northwest of Osaka's Nishinari Ward where urban problems are concentrated, and is intended to survey the health condition of the residents and try to clarify the relationships between health and economic causes (economic inequalities) and social causes (social exclusion) that are in the background.

長柄プラザの活動はスペースの都合上次号に掲載予定。

The4th Unit 第4ユニット　Global Promotion 国際プロモーション

■脱炭素社会にむけてのありうべき活動

日　　時：2008年10月22日（水）
参加者数：14名（うち外国人5名）
発 表 者：Julie Dearden氏（オックスフォード大学ハートフォードカレッジ国際部長）
Yvette Dearden氏（英国・東ミッドランド・リージョナル・アセンブリー）

国際学術ジャーナルの出版社（編集部門）はオックスフォードに集中しており、当地で研究・教育支援の拠点を持つことは重要です。2008年3月に同カレッジと行った都市再生についての講座開発に引き続き、東ミッドランドにおける脱炭素社会への取り組みを題材に、講義・討論を実施しました。

■国際学術ジャーナル立ち上げについて

日　　時：2008年12月11日（木）
参加者数：20名（うち外国人2名）
発 表 者：F. コルベールFrançois Colbert教授（HECモントリオール）

国際学術ジャーナル『アーツマネジメント』の編集長であるコルベール教授から、ジャーナルの運営のあり方や課題、およびその基礎となる国際ネットワークの運営についてのノウハウなどを学びました。

The international promotion unit has been preparing the publication of our international journal. We organized talks with specialists from the U.K. and Canada to give us ideas and opinions on current publishing practices. In this spring we are about to compile a special issue towards the international academic circles.

Information　お知らせ

■イベント予定

2月	1日	船場アートカフェ　マンスリーアートカフェ	於船場プラザ	第2ユニット
2月	2日～3日	メルボルンサブセンター開設記念国際シンポジウム	於メルボルン大学	都市研究プラザ
2月	6日	第7回アカデミックフォーラムinジョグジャカルタ	於ジョグジャカルタ	都市研究プラザ
2月	16日	第7回アカデミックフォーラムinバンコク	於バンコク	都市研究プラザ
2月	16日	日韓グローバル経済地理フォーラム	於高原記念館	第3ユニット
2月	25日	上海・大阪クリエイティブ・ミーティング	於上海	第1ユニット
2月	26日	第11回　第3ユニット定例研究会	於高原記念館	第3ユニット
2月 － 4月		連続ワークショップ2月17日、2月28日が決定 セキュリティ不全を克服するハウジング供給のアクティブな試み	於高原記念館 ほか	第3ユニット
3月	4-6日	ライティング・セミナー	於高原記念館	第4ユニット
3月	7日	都市問題研究シンポジウム「沖積平野の地盤・環境特性」（案）	於文化交流センター	都市研究プラザ
3月	7日	シンポジウム「場所の力―歩きながら考える」	於高原記念館	第2, 3ユニット
3月	23-25日	第3回　アジア・アートマネジメント会議	於高原記念館	第2ユニット
3月	19日	第12回　第3ユニット定例研究会	於高原記念館	第3ユニット
3月	29-31日	釜山における創造都市と創造産業に関する調査	於釜山	第1ユニット

■特別研究員（若手）公募

Ｇ－ＣＯＥ特別研究員（若手）募集（2009年2月募集分）　募集期間：2009年2月2日（月）～2009年2月6日（金）
http://gcoe.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/public-offer.html

■次号発行予定

2009年5月（季刊）

大阪市立大学　都市研究プラザ　〒558-8585　大阪市住吉区杉本 3-3-138
所長　佐々木雅幸　副所長　水内俊雄　冨田常雄　http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/staff.html
ユニット長　1 佐々木雅幸　2 中川 眞　3 水内俊雄　4 岡野 浩
編集委員会　コーディネータ　蟲明眞一郎　http://gcoe.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/fellow.html